

今、あなたが必要としている「基礎」を学び取ることができる

# 数専ゼミ夏期講習会

## ■夏期講習の期間

前期 7月24日（土曜日）から 7月29日（木曜日）までの連続6日間

後期 7月31日（土曜日）から 8月5日（木曜日）までの連続6日間

(1) 次のA～Fの組の中から受講希望の組を選んでお申し込み下さい。（いずれも午後）

前期 A組(4:30～6:00)／B組(6:00～7:30)／C組(7:30～9:00)

後期 D組(4:30～6:00)／E組(6:00～7:30)／F組(7:30～9:00)

(2) A組～F組の中から、複数の組にわたって受講することもできます。

原則として、1つの組では6日間1科目の学習をします。2科目以上受講したい場合には、2つ以上の組を選択受講して下さい。（中途半端な学習で終わらせないためです。）

小学生 算数, 国語 中学生 数学, 英語, 国語, 理科, 社会 高校生 数ⅠA, 数ⅡB, 英語

★以上の科目の中から、学習したい科目だけを選んで受講できます。

(3) この期間中に出席できない日がある場合には、後日振り替え授業をしますので、その旨お申し出下さい。

## ■指導方法

個人別に学習計画を立て、学習する教材も個人毎にレベルと目標に合わせて塾で用意し、個人指導します。

## ■講習会の費用（小学生、中学生、高校生とも同一です）

1コマの授業は90分で、1科目6コマを「1単位」として受講して下さい。

1単位(90分×6回)の受講料は15000円となります。（空調費、教材費、消費税などの経費は不要です。）

## ■受講の申込「受講申込書」（教室にあります）に必要な事項を記入し、受講料を添えて教室まで持参して下さい。

「受講申込書」は、インターネットからダウンロードすることもできます。



## 山形県公立高校入試対策

受験勉強は合格するためにやるものです。だから、出た問題は確実に解けるようにしておくことが受験対策の第一歩になります。

### 中3数学

山形県では何が出たのか。詳しく知りたい方は、以下の資料をご覧ください。出題単元、配点、難易度について、過去50年分を分析した資料をご覧ください。

→ [suusenn.com](http://suusenn.com) → 「こんな問題が出た！」

いままでに学校で習った単元については山形県入試出題問題を解くことができます。この中で、来年絶対に出題されるのが「方程式の文章題」と「1次関数」です。合わせて30点配点になります。

この2つの単元については、夏までに仕上げておく必要があります。9月から始まる学校や校外模試では100%出題されるからです。また、9月以降では、相似、円、三平方の単元の学習とそれらを融合した図形の総合問題（入試出題問題）の学習をしなければならないからです。

夏期講習を受講することで、例えば1次関数の動点と面積の問題、あるいは方程式の速さや割合の問題、図形の証明問題などの超頻出問題が解けるようになります。

学習する教材は、山形県公立高校入試出題問題です。

50年分を単元別に「縦に」学習します。このように学習すると、出題傾向（出題内容や配点やレベル）をはっきりと知ることができるので、入試で、どのような問題が出題されても直ちに解くことができるようになります。

### 中3英語

長文問題は、まだ解けません。習っていない文法や単語がたくさんあるからです。

今、やっておくことは、習った文法項目を使った英文和訳、英作文、書きかえ、英問英答、条件英作文の練習です。これらは入試の出題形式であるからです。

夏期講習を受講することで、文型、接続詞、不定詞・動名詞、受け身、現在完了などに関する英文和訳、英作文、書きかえ、英問英答、条件英作文の問題が解けるようになります。

教材は、塾で用意します。すべて無料です。東高、西高に合格した先輩が実際に学習した教材です。

単語の学習とカリスニングは、習うのではなく、ひとりで毎日学習してはじめて効果がでます。1年の教科書の最初から、英文を声を出して読みながら、紙に英文を書き、声を出して意味を言います。意味の分からなかった単語は教科書の巻末で調べ、繰り返し書いて、スペルと意味を頭

の中で結びつけます。

リスニングは、1回聴いて終わりではなく、前の文を聞いているときに次の文が読まれなくても自分で思い出せるくらいまで繰り返し聴くことです。言葉ですから、繰り返すことが最高の学習法になります。慣れることが言葉の学習の「王道」だからです。

## 中3国語

長文読解と国文法の受験対策学習はもう始めることができます。国文法は作文（18点配点）の基礎ツールです。

長文読解では、自分で考えて答を作ってははいけません。設問者が文章の中で解答として用意した文を見つけ出し、そこをまとめて答を作ることが読解の解き方です。ちなみに、問題文の最初を見てください。「次の文を読んで、後の問いに答えなさい。」と書いてあります。これは、出題者が「答は次の文章の中に書いてありますから、これを見つけ出して書いて下さい。」と言っているのです。

読解の苦手な人は、自分で答を考えようとします。そうした思考回路から抜け出して、設問者の思考回路で文章を読み取る技術を習得したとき、読解が得点源に変わります。

夏期講習を受講することで、文章の中から答の鍵を見つけ出し、それを使って答案を作る技術、つまり設問者が要求している正解を書く技術を習得することができます。

## 中1, 2数学

まず、計算まちがいの多い人は、100%正答できる力をつけることです。問題を何百題練習しても計算力が身につくわけではありません。速く・易しく・正確に計算できる技術を身につけてはじめて計算力は向上するのです。

方程式の文章題は、入試レベルまで解けるようにしておくことです。そうしておくで、3年生以降の入試対策が楽になります。なぜならば、数学以外の教科の入試対策に時間をさくことができるようになるからです。数学以外の教科の得点を上げることで、総合点が上がるという意味です。

夏期講習を受講することで、速く・易しく・正確に計算できる技術が習得でき、入試レベルの方程式の文章題が解けるようになります。教材は塾で用意します。無料です。東高、西高に合格した先輩が実際に学習した教材です。

「学力化学習法」という、間違いを徹底的につぶしながら進んでいく学習法を教えてください。これは「まちがった問題は1週間後にもまちがえる!」ということが起きないようにするための学んだことを学力化する学習法なのです。

## 中1, 2英語

数学を2ユニット受講すると英語は無料で学べます。学校の宿題や問題集を持ってきて下さい。それらを仕上げるすることができます。問題集をもっていない人には塾で提供します。こちらは実費として1800円が必要です。

## 高校数学

模試で点がとれないという人は、「基礎」がないと考えてください。

ただし、「基礎」=基本ではない、ということを知っておくことが大切です。「基礎」とは、模試などの問題文に埋め込まれた解法情報を見つけ出すためのツールのことです。この「基礎」を持っていないと、問題文に書いてある解法ガイドを見つけることができないから、「解けない」ということになります。たとえば、問題文の中に、「くじを1本引いてはもとに戻す試行を3回繰り返したとき…」（2021年度大学入試共通テスト数学IA第3問(1)）というフレーズがあったとすると、ここから「独立試行の確率+組合せ」という「基礎」が発想できないと解けません。しかし、発想はできても「独立試行の確率ってどのようにして解くんだったけ?」では、やはり解けません。

模試に限らず日々の学習であっても、平方完成や絶対値の計算ができないと、関数のグラフをかいたり、最大・最小の問題は解けません。平方完成や絶対値の計算が問題を解くときの「基礎」になっているからです。

いずれにせよ、「基礎」とはこのように、必ずしもいつも易しいとは限りません。数学が苦手な人をみると、この基礎がぐらぐらしています。

夏期講習を受講することで、今、あなたが一番必要としている基礎を学習することができます。学習計画や教材は塾が用意します。あなたはそれをやりきるだけで、あなたが今必要としている基礎を手に入れることができます。

## 小学算数

小数の乗除算、分数の加減乗除算が100%正解できる力がこれからの算数・数学の学力を決めていきます。たがが計算、されど計算です。計算力のない人は、数学が得意にはなれません（テストで点が取れないという意味で…）。

問題を何百題練習しても計算力が身につくわけではありません。速く・易しく・正確に計算できる技術を身につけてはじめて計算力は向上するのです。

文章題は、割合（百分率と歩合）、単位量当たりの大きさ、速さについては、かなり高度な問題まで解けるようにしておくことが、中学で数学を伸ばす原動力になります。

夏期講習を受講することで、速く・易しく・正確に計算できる技術、また、割合、速さ、単位当たり量の文章題について、難しい問題でも図を使って簡単に解く技術が習得できます。

49年の指導実績  
数学専門個別指導塾

# 数専ゼミ

山形市東原町二丁目10-8（サンエー前十字路西へ80m）

TEL 633-1086

URL suusenn.com